



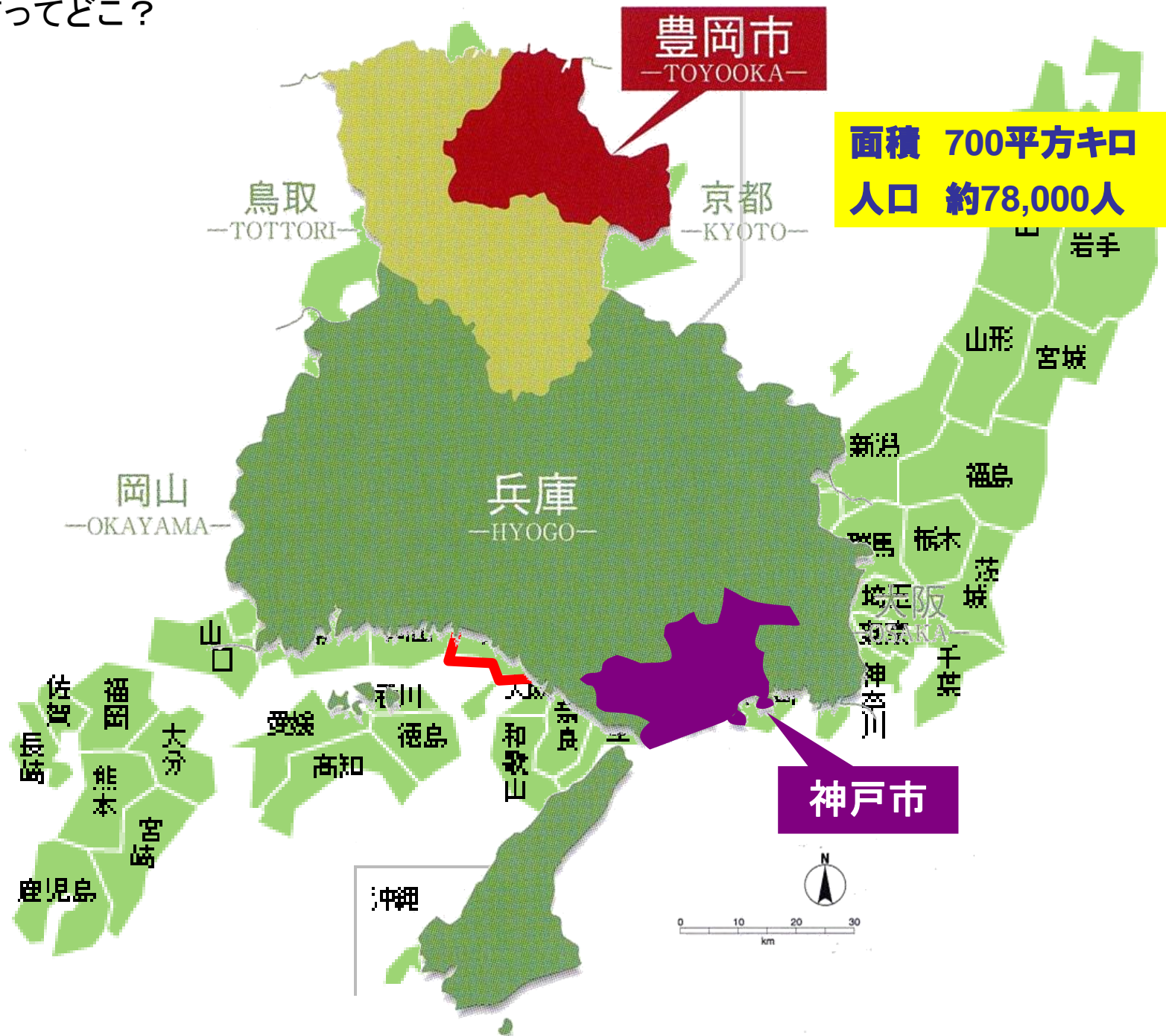
本と温泉 Books
and
Onsen

地産地読

～100年読み継がれる本をつくる～

NPO法人 本と温泉 理事 大将 伸介

豊岡市ってどこ？



城崎温泉

柳並木



そぞろ歩き



7つの外湯



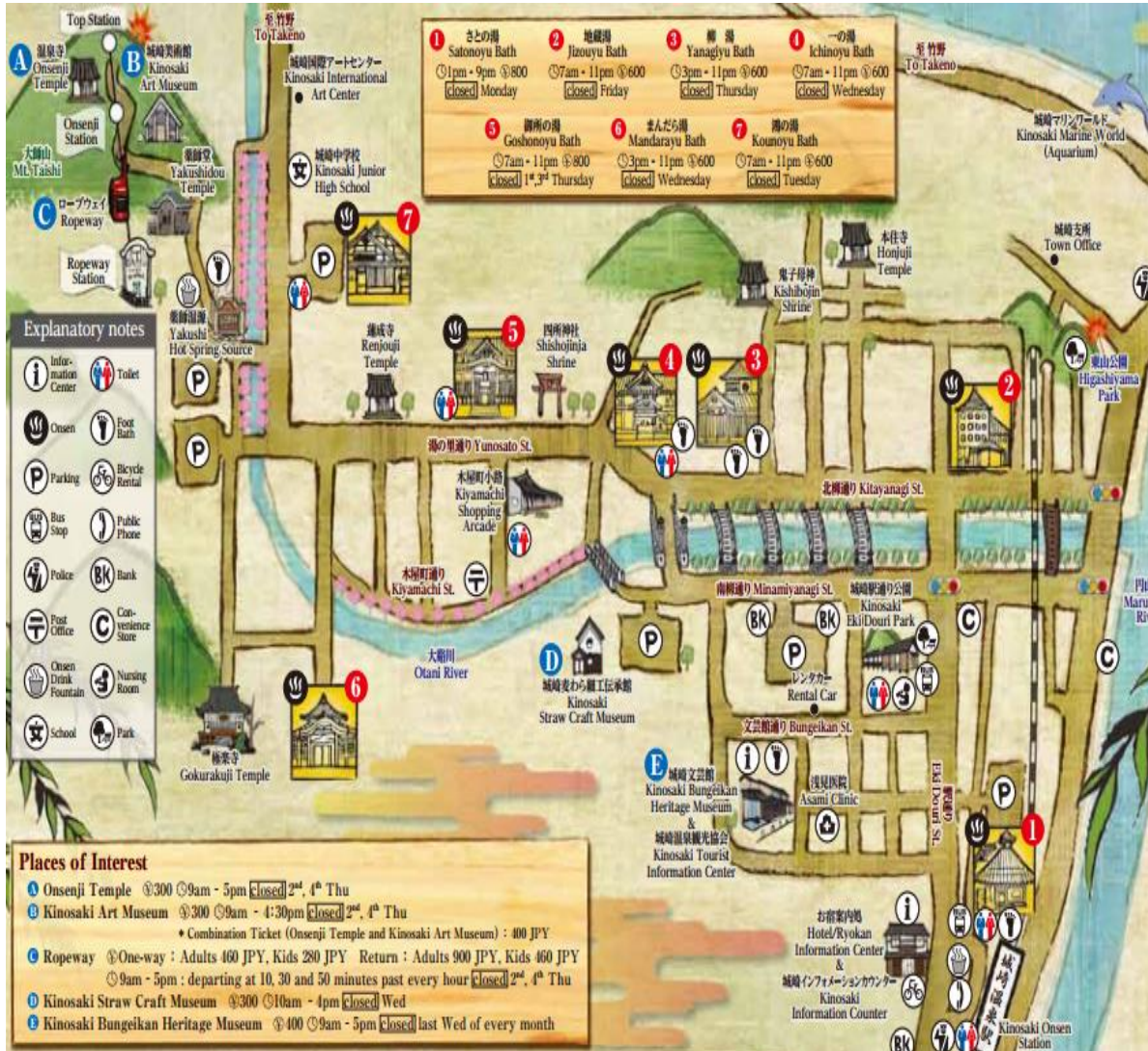
木造三階建



街全体が一つの宿

「駅が玄関、通りが廊下、旅館が客室、外湯が大浴場、商店が売店

城崎に住む者は、皆同じ旅館の従業員である。」



「外湯第一」内湯の大きさを旅館の規模に応じて制限するほか、

売店のないお宿が多く、チェックイン後は「さあ温泉街に出てまちを楽しんでください」とお客様を送りだす。

「共存共栄」の精神。

1 活動の背景

「本と温泉」は「城の崎にて」の作者志賀直哉が城崎を訪れてから100年後の2013年、城崎に点在する温泉旅館の若旦那衆が中心になって起ち上げたプロジェクトである。

城崎のまちから生まれたアイデアによったできた本をきっかけに、城崎へ人が来てくれることを目的とし、城崎でしか購入できない本を制作している。

2 事例のポイント

○城崎でしか買えない本をつくる

【2013年 第1弾】 志賀直哉作品の「城の崎にて」「注釈・城の崎にて」箱入二冊組

【2014年 第2弾】 万城目学作「城崎裁判」

【2016年 第3弾】 湊かなえ作「城崎へかえる」

【2020年 第4弾】 tupera tupera作「城崎ユノマトペ」



文学の魅力を今の城崎地域のチカラで引き出し、「城の崎にて」のように100年読み継がれる新しい本をつくることを目標としている。また、出版された本は城崎温泉街でのみ購入でき、購入先はお土産物店、旅館、酒屋、外湯など本取組みに共感してくれた地域の人たちが行っている。

また、豊岡市とも協力しながら、豊岡市立城崎文芸館での企画展示や、作者によるトークイベント等を開催し、観光客のみならず、地域の方々、作者の交流を通じて、大切な仲間づくりを継続して実施している。

本取組みにより、本をきっかけとした温泉街巡りを行うことが付加価値を生み、本があるから城崎温泉へ行くという誘客促進へと繋がっている。

3 その他

・当初よりまちぐるみの活動として設計

注文は各販売店から本と温泉へ入り、メンバーである旅館の主人や若旦那が直接各販売店に納品へ行く。そこでコミュニケーションが生まれることで、本を通じた住民同士の交流を図っている。

・10年間継続した経営努力

自主財源でほぼすべての経費を賄って維持することを10年間続けている。



今まで出版した4つの本



城崎温泉街の約50店舗で販売



歴代の作者を招いたトークイベントも開催

NPO法人 本と温泉 事例紹介



本と温泉
Books and Onsen

<本と温泉 出版作品>



第1弾

志賀直哉
『城の崎にて』
『注釈・城の崎にて』



第2弾

万城目学
書き下ろし小説
『城崎裁判』



第3弾

湊かなえ
書き下ろし小説
『城崎へかえる』



第4弾

tupera tupera
描き下ろし絵本
『城崎ユノマトペ』

<本と温泉 販売場所>

旅館



酒店



外湯



観光案内所



書店



お土産店



城崎文芸館



ロープウェイ乗り場



など、城崎温泉街の50ヶ所以上で出版本は販売されている。

湊かなえと 城崎温泉

二〇一七年九月九日—二〇一八年五月六日



<本と温泉 関連展示/イベント>

二〇一六年一〇月一八日—二〇一七年九月三日

万城目学と 城崎温泉

城崎文芸館 第1回企画展



「城崎裁判」
1万部突破記念
会期延長!

小説家は温泉まちで
何を見たのか?



kinosaki literature museum
the 4th exhibition
How to make books and onsen

城崎温泉にて地域限定公開

城崎文芸館 第4回企画展
「本と温泉」の作り方。



<本と温泉 最近と今度の取組み>

■ 設立10周年記念企画

2023年7月 建築と温泉 開催

城崎温泉の個性的な宿を手掛けた著名建築家8人によるトークショーや建築家による建築物案内



■ 設立10周年記念企画

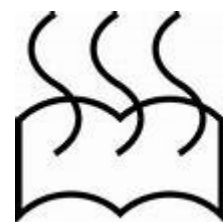
『新訳・城の崎にて(英訳版)※仮称』出版予定

写真 川内倫子 翻訳 テッド・ゲーセン

■ 本と温泉『第5弾』出版

作家 いしいしんじ

ご清聴ありがとうございました。



本と Books
温泉 and
Onsen

家賀再生プロジェクトの活動

【つるぎ町】
家賀集落

◆ けかしゅうらく



家賀再生プロジェクト代表 枋谷京子

つるぎ町の位置



つるぎ町ってどこ？

<美馬郡つるぎ町の位置>



美馬郡つるぎ町の家賀集落の位置



★家賀集落の説明①

剣山系で最大規模を誇る標高100m～600mに位置する傾斜地集落



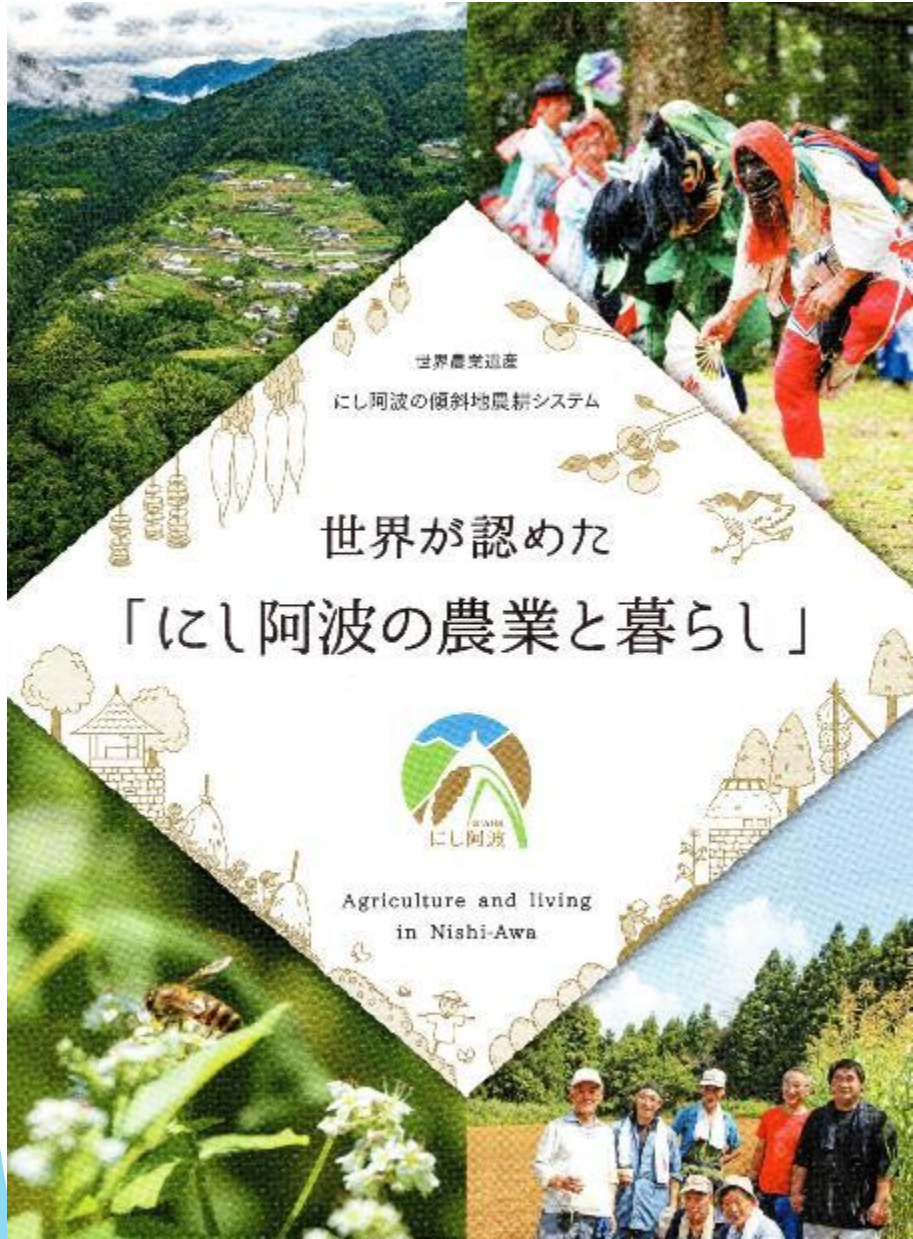
★つるぎ町貞光の家賀集落

★家賀集落の説明②

- 忌部神社別当「西福寺」
- 忌部の正統を祀る「児宮神社」
- 家賀城跡など



つるぎ町貞光の家賀集落



にし阿波の傾斜地農耕システムとは、



★2018年3月10日にFAO（世界食糧農業機関）GIAHS（世界農業遺産）に認定



林博章氏



天空（ソラ）の藍栽培への挑戦

藍栽培のメリット



- 1 藍栽培が成功すれば、にし阿波の「世界農業遺産ブランド」の認証を受けることができます。

② 化学肥料や農薬を使用しないので、土壌を傷めず、環境にも優しく、藍を安心して衣料や食材に使用することができる。いわゆる世界標準の藍が栽培



③ 藍は獣害が少ないので、柵を作らず安心して栽培することができます。

④ V字型溪谷の上昇気流と霧の効果で、水を撒かなくても栽培できます。など。



農作業①等高線に沿って畝を作る



農作業②肥料となるカヤ場（採草地）のカヤを刈る



農作業③コエグロ作り（剣山系の伝統農業のシンボル）



農作業④藍苗の定植作業



農作業⑤カヤと落葉を敷き詰める作業



農作業⑤藍葉の刈り取り作業



家賀の藍粉

家賀の藍粉



藍は古来より薬草として食用され、
近年の研究により藍の成分が見直されています。

■ 主に含まれる栄養成分

- ・ カフェ酸・フラボノイド・トリプタンスリン
- ・ ケンペロール・グルクロニド・ケルセチン

など体の酸化を予防する作用や免疫力を高める作用、肥満、脂質代謝異常症、糖尿病などの生活習慣病を予防、改善する作用などを持つ栄養成分が豊富に含まれています。血圧、血糖値、コレステロールが気になる方、風邪をひきやすい、虚弱体質、免疫力の低下が気になる方、シミ・シワなどお肌の老化が気になる方におススメしたい食材です。

藍入り半田手延べそうめん



藍を入れた商品開発(藍団子)



藍の商品化（ゆずりっ藍）



藍の商品化（藍ビール）



日本の桃源郷からの贈り物

家賀藍ビール

KEKA INDIGO BEER
A Gift From Japan Paradise On Earth

徳島県つるぎ町の標高500m超の高地にて、家賀（けか）再生プロジェクトが世界農業遺産／傾斜地農耕システムを活用して無農薬・無施肥で栽培した藍を使用。畑に刈り取った葉や落ち葉を敷き詰め、化学肥料も農薬も使わない昔ながらの方法で育てられています。この1本は欧州の農家のクラフトビールをベースに、食用藍の粉末を加えました。トロピカルな味わいと藍の風味が特徴です。藍粉は沈殿している可能性があります。最後の1滴までぜひお楽しみください。

品目：発泡酒 保存方法：要冷蔵 麦芽使用比率：50%以上
原材料名：麦芽（オーストラリア製造）、ホップ製造、ホップ、糖粉（徳島県産）、カラキチン、内容量：330ml、アルコール分：5.5%
製造者（株）ハトルリユウ 徳島県美波市穴吹町口山字宮内51番1
※飲用は20歳以上から
賞味期限：

藍の商品化（藍チョコレート）



藍の商品化（藍晩茶）



地域を創る 四国を拓く

徳島市500以上の中山間地。昔島興つる吉町日光の集落地区にある耕作放棄地で、耕作に取り組む隊員がある。名称は「家賀再生プロジェクト」。

2018年3月、板谷京子さん（右）と町員日光大須賀一の呼びかけで発足した。

板谷さんは町中心部に暮らすが、家賀地区には夫の出身地。農務りなどで訪れるたび、過疎化が進む集落に寂しい思いが抱いていた。地域を巡り歴史や文化を知ろうと、この他にもっと人の動きをつくりたいと思い立つ。徳島市の系統上、房ルーフの林広さん（左）や地元住民の協力を得て、集落で町和初期まで盛んなた藍栽培に乗り出した。

家賀再生プロジェクト 徳島興つるぎ町

四国4社共同企画

家賀地区のまなな原西側の中山間地は傾度20〜40度の傾斜地で、段々畑の上まに水平に利用はせず、斜面のまま農作物を育てる。同じ阿波の傾斜地農耕システムとして世界農業遺産に認定されているこの農法の継承を目指したが、主要メンバーは農業経験がないばかり。そのため、昔は傾斜地で農業を営んでいた地域住民の元へ通って農法を学んだ。次第に住民との交流も深まったという。

傾斜地に作った畑には、霧の発生する十分な水分が与えられ、土の流出防止に敷いたカヤが保水や肥料の役割を果たす。化学肥料や農薬を使わずに育てる農法は、食用粉末の藍粉に加工



傾斜地に作った畑で、栽培中の藍について説明する板谷さん（右）と徳島興つる吉町日光

藍作通じ集落に活気

して販売する。ハーブの種と輸入リョコレーような風味が特徴で、特上を作るなら個性的な徳島の半田そうめんや和菓子に使われるほか、藍粉の存在を知った大阪の会社がシシガホーを巡る観光ツアーも開催で、県内外の大学も

外メディアも視察や越えてなしたい」と響きを感じた。

メンバーの一人で、夫が家賀地区出身の古賀秀佳さん（右）は、地元の人からすればたのしみでも、この地耕の空気や風景を体感し入る人気がいて自らを想像できなかった。外から魅力を感じた人が来るといいのはうれしい」と話す。

農法は地区への移住相談を受けるといってか、板谷さんは「家族と移住希望者をつなげる人の動きが大事です。移住は町の近くにサロンを開いて、訪れた人も



徳島新聞

愛媛新聞

高知新聞

徳島興つる吉町日光の集落地区にある耕作放棄地で、耕作に取り組む隊員がある。名称は「家賀再生プロジェクト」。

2018年3月、板谷京子さん（右）と町員日光大須賀一の呼びかけで発足した。

板谷さんは町中心部に暮らすが、家賀地区には夫の出身地。農務りなどで訪れるたび、過疎化が進む集落に寂しい思いが抱いていた。地域を巡り歴史や文化を知ろうと、この他にもっと人の動きをつくりたいと思い立つ。徳島市の系統上、房ルーフの林広さん（左）や地元住民の協力を得て、集落で町和初期まで盛んなた藍栽培に乗り出した。

藍の栽培加工で集落活性

徳島の女性ら 伝統農法継承も



「家賀再生プロジェクト」に志す板谷京子さん

いくつものプロジェクトの目的だ。藍粉に用いられる藍葉は、土の流出防止にも役立つ。プロジェクトのメンバーは、徳島市内の各農業者や若手たちが集まり、あつちの半田地区の生産者がたそうめんに藍を混ぜ、ようかんや団子も作られた。板谷さん（右）は、藍栽培を学びたいと、2018年に徳島興つる吉町日光のまなな原西側の中山間地に移住した。板谷さんは、夫の出身地である家賀地区に、昔島興つる吉町日光の集落地区にある耕作放棄地で、耕作に取り組む隊員がある。名称は「家賀再生プロジェクト」。

伝統農法を未来へ

藍は集落の誇り

徳島にし阿波の傾斜地農耕は、昔島興つる吉町日光の集落地区にある耕作放棄地で、耕作に取り組む隊員がある。名称は「家賀再生プロジェクト」。

町民で代表者の板谷さん
プロジェクト立ち上げ
栽培加工で活性化図る



「家賀再生プロジェクト」に志す板谷京子さん

藍の生葉染め体験とツアーの実施



ボランティアで看板の設置



家賀の案内ガイド。感動を与える石田修さん。



外国人の視察にも対応（写真はイギリスから）

農福連携事業 「認知症の方と家族の会」



他の集落でも藍栽培が広がる（つるぎ町貞光の吉良集落）



- 「まちづくりファクトリー」の開催
徳島大学・地元つるぎ高校・商工会との連携事業

業



県外の企業研修・視察の受け入れ



家賀の藍を徳島の小中高の教育活動に





伝統行事の復活（箱回しによる三番叟）



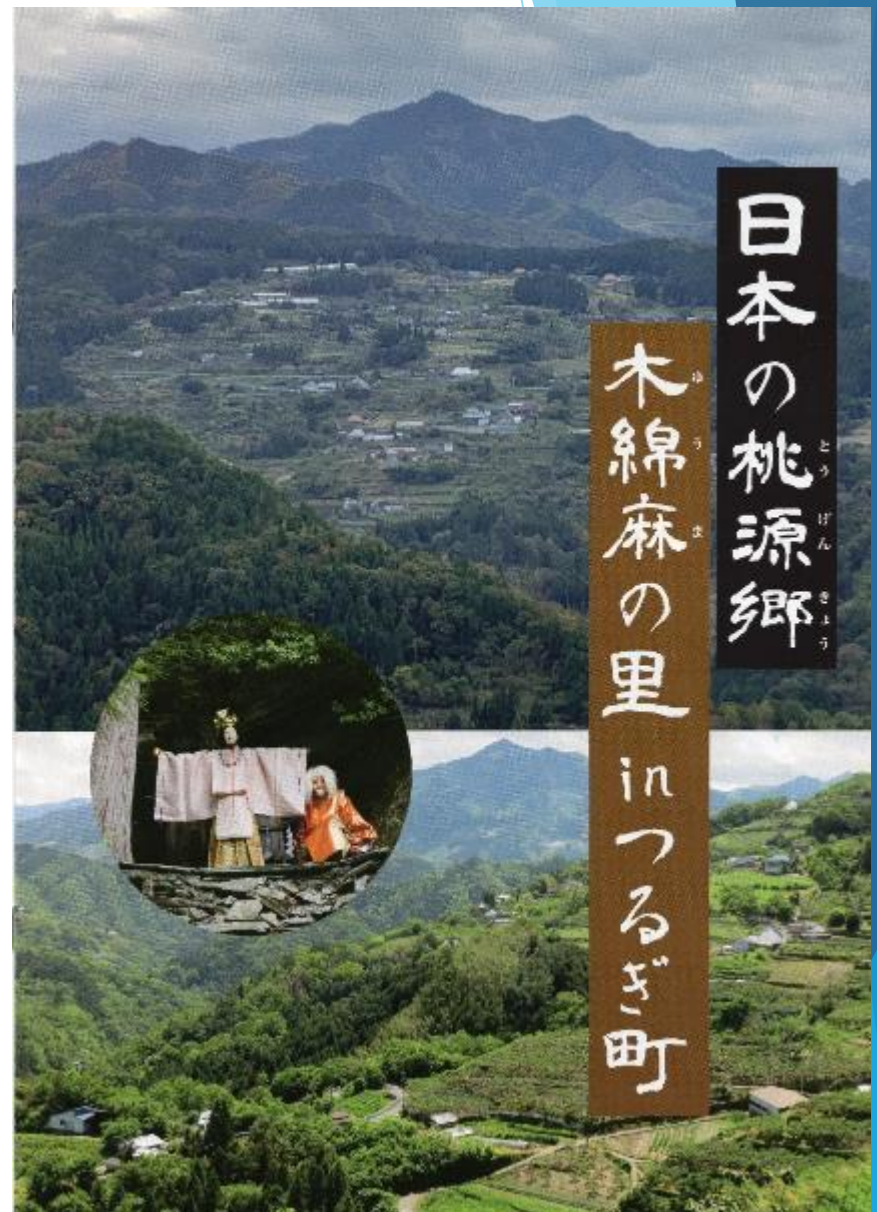
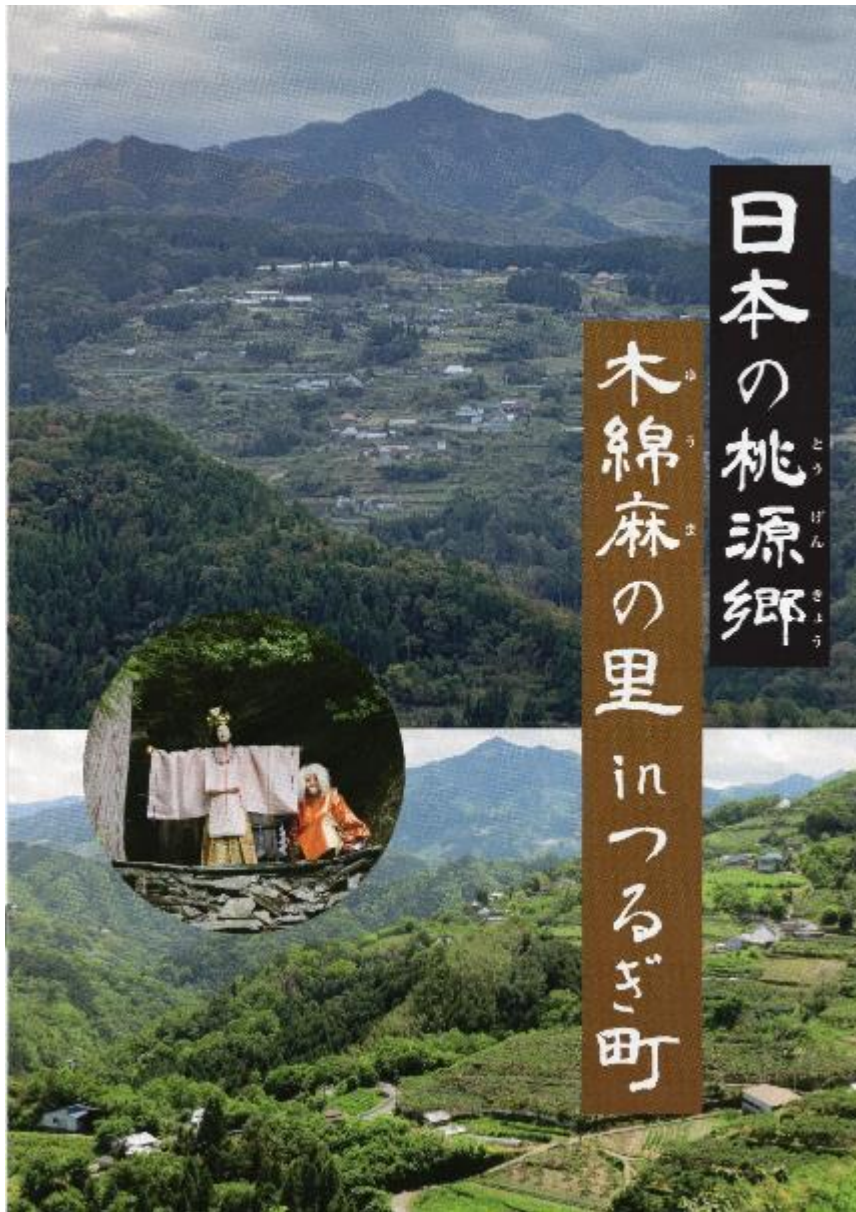
4月の豊穰祈願祭。

日本遺産大使・世界的な能楽師
大鼓の大倉正之助さん



豊穰祈願祭に地元・木綿麻太鼓が20年ぶりに復活

観光パンフレットの発行





広島市で開催されたG7の会場の一つ。
「ヒルトン広島」で**藍コンクリート作品**の展示



家賀に県内外の企業が農園を開設
株式会社「さわ」、ANA、エスビー食品

徳島集落再生表彰「優秀賞」を受



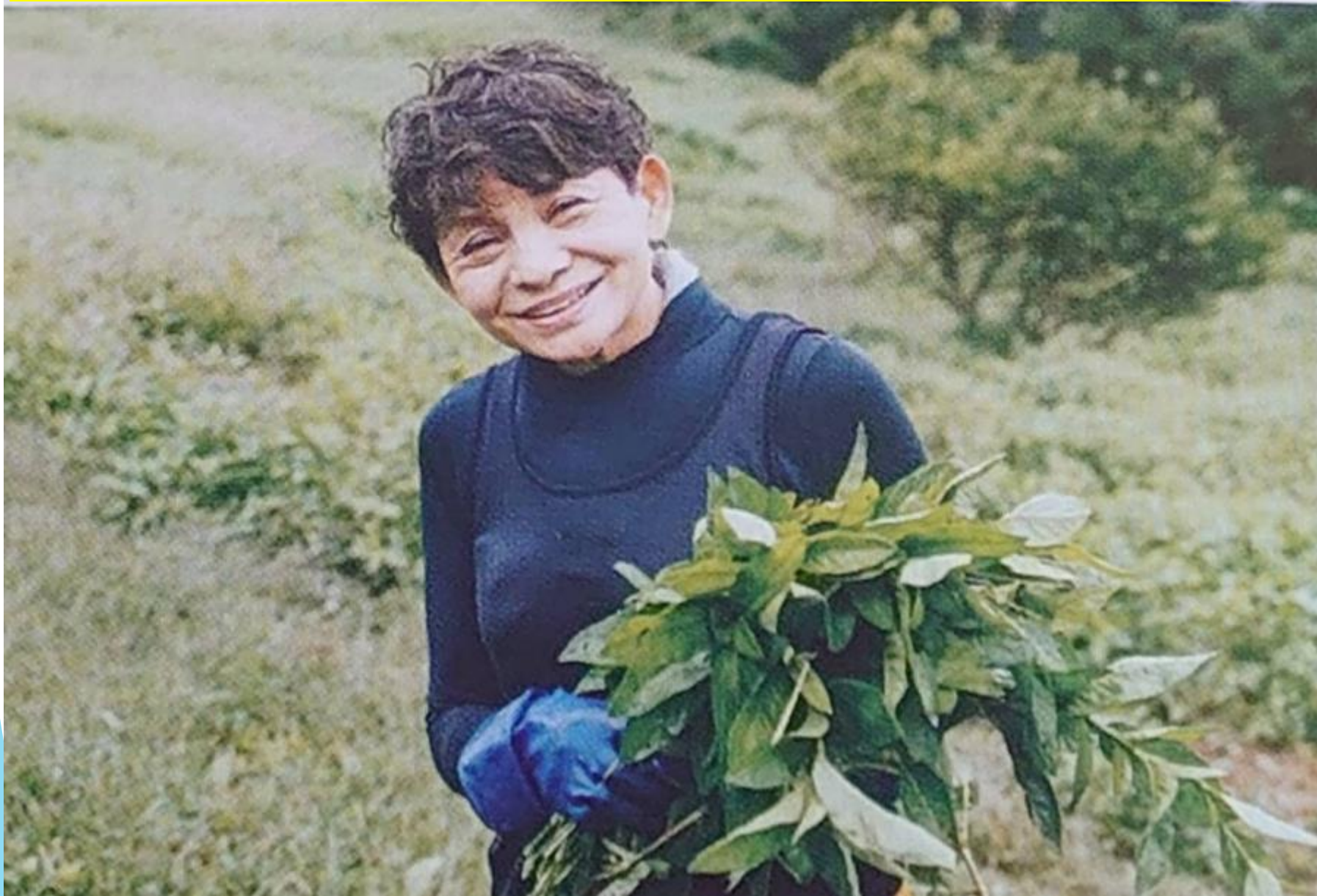
家賀に中高の修学旅行生を受け入れ



来春に「忌部文化研究所」が宿泊施設を建設 家賀再生プロジェクトは次のステージへ移行



皆さま、家賀集落でお待ちしています。



昭和かすみ草「百年産地」を目指して



福島県昭和村の概要

○福島県の西部に位置する周囲を山々に囲まれた特別豪雪地帯

○人口1,129人 高齢化率57.13%

○最高積雪は2mに達する

○耕地は標高400～750m

（昼夜の寒暖差が大きい）

○夏季は冷涼で平均気温22℃

（最高平均27℃、最低平均15.5℃）

◎気象条件がかすみ草栽培の適地！

○本州で唯一、伝統織物の上布の原料となる「からむし」を栽培生産している



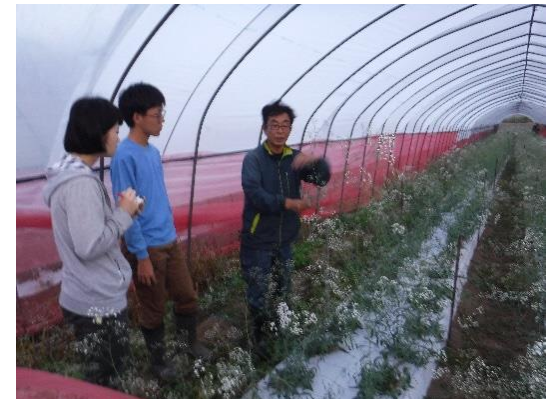


昭和村のかすみ草の歴史

- 昭和58年 昭和村でかすみ草栽培が始まる
- 昭和63年 葉たばこの廃作奨励とともにかすみ草への転換が拡大
- 平成15年 かすみ草サミット開催
- 平成17年 昭和村農林水産物集出荷貯蔵施設（雪室）の稼働開始
※雪の冷気で予冷する施設で、大型ダン
プ300台分の雪を使用
- 平成24年 村内中学生を対象に「花育」開始
- 令和元年 「昭和かすみ草振興協議会」設立
- 令和 4年 昭和かすみ草の販売額6億円突破！
- 令和 5年 GI登録（地理的表示（GI）保護制度）

かすみそうの生産状況

- 栽培面積：約26.3ha(4町村合計)
 (村内約18ha)
- 生産者：88戸(4町村合計)
 (村内60戸)
 - 新規就農 H16～R4年(21戸) ※法人1
 - 新規就農予定 5戸 (R5年度就農予定)



- 出荷数量(部会全体) : 4,891,683本
- 販売額(部会全体) : 609,085,247円

1. ブランド力強化による生産振興・消費拡大

(1) 雪の活用

豪雪地帯という特徴をいかし、雪を使用した貯蔵施設

「雪室」を整備し、昭和かすみ草の品質確保・向上

(2) 生産者と連携したブランド化

生産者や地元JAと連携し「昭和かすみ草振興協議

会」を設立しPR活動実施。雪室を通して出荷された

かすみ草を「昭和かすみ草」としてブランド化。



2. 移住・定住を契機とした新規就農者の確保育成

- (1) U I ターン者による新規就農者の確保・育成
U I ターン者対象のインターンシップ事業「かすみの
教学校」で栽培体験
- (2) 生産者や関係団体と連携した新規就農者の育成
「新規就農者受入事業」や「かすみの教習所」で栽培
研修



3. 次世代に対する地域の誇りと愛着の醸成

(1) 小中学生への農業体験授業

栽培から流通に関する全ての行程を体験することで、村の基幹産業であるかすみ草栽培を学ぶ「花育」の取り組みを実施。中学3年生は花育の総まとめとして、東京の大田市場や生花店での販売・PRを行う。小学校高学年は、生産農家を訪問したり、雪室見学を実施。



取組の効果

- ①雪室が稼働したことでかすみ草の品質向上。市場からの高い評価を受け「昭和かすみ草」ブランド確立。令和4年度の販売額が過去最高の6億円を超えた。
- ②「新規就農者受入事業」開始以降、30組42名を受け入れ、その内25組36名が昭和村で就農を続けており、高い定着率を維持。直近5年間においては、転入超過となり、社会増に大きく貢献。
- ③小さな村であってもかすみ草が全国に出荷されていることに誇りを持つ機会となり、ふるさとへの愛着を醸成している。また、将来自らが生産者となることも大いに期待される。

染め加工



かすみ草のドライフラワー

花瓶で鑑賞した1週間後に、風通しの良い日陰で逆さにして乾燥すればドライフラワーとして1年間楽しめめます。



(参考) 花を長く楽しむため

○新鮮な水道水をバケツなどに入れ、茎の根本を切り戻してください（水切り）。

○蕾が咲くためにはエネルギー（糖類）が必要です。水の腐りを防ぐ殺菌剤と糖類が入った消費者用後処理剤が市販されていますので、利用してください。

○直射日光やエアコンの風があたらないところに飾ってください。

◎是非、昭和かすみ草をお買い求めください。

ご清聴ありがとうございました。



共助×共創による、これからの公共サービスの実現

～一人ひとりが住みたい場所に住み続けるために～



富山県

朝日町

Asahi Town

・HAKUHODO・

畠山 洋平

奈良県生駒市出身

東京都世田谷区/富山県朝日町南保在住

▼キャリア

2003年 (株) 博報堂入社

2013年 博報堂従業員組合委員長

2019年 ビジネスデザイン局 部長

▼現在

第二MDコンサルティング局 局長代理

富山県朝日町 次世代パブリックマネジメント アドバイザー

富山県地域交通戦略 委員



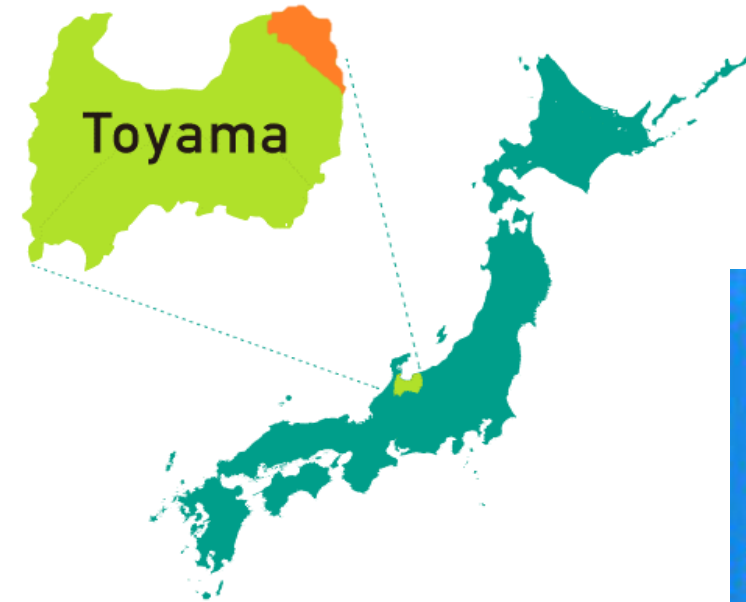
◇ 朝日町の基本情報 (令和4年5月1日現在)

〈位置〉 富山県の東端、新潟県との県境の町

〈人口〉 11,173人 (高齢化率44.6%)

〈世帯数〉 4,693世帯

※平成22年に町内全域過疎地域指定を受けています。



◇ 消滅可能性都市に指定

- ・ 2014年：消滅可能性が高い都市のひとつに選定される。
- ・ 「**変えるんです”朝日町”**」をキャッチコピーに掲げ、山積する課題解決に取り組む。



◇ 積極的な外部事業者/外部人材との共創

- ・ 2020年：新規就農者の研修施設を整備し人材育成
- ・ 地域おこし企業人/協力隊も積極的に受け入れる。



◇ 「海」 「平野」 「山」 「川」
多くの自然要素を兼ね備えた町



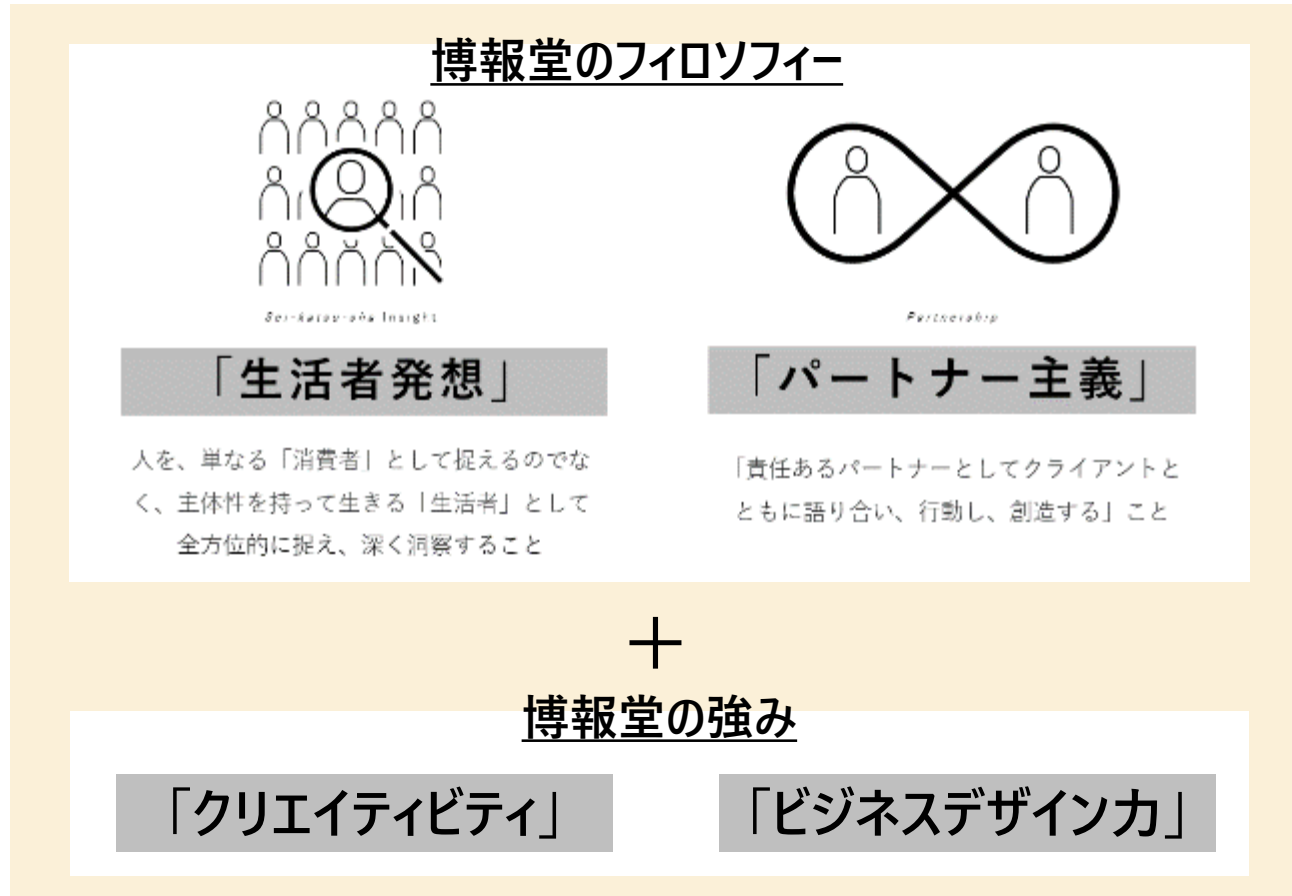
自然要素ごとの
課題も抱えている

◇ 全国に先駆けた朝日町における取り組み例
(詳細は別添参照)



なぜ博報堂が朝日町とプロジェクトを？

地域で起こっている生活者の課題に対して、
生活者を理解し、マーケティングをしてきた博報堂が貢献できないか？
= 広告業転換期における、広告外における新しいチャレンジを朝日町で。



広告領域
マーケティング領域

消費者→生活者視点で / withクライアント

顧客の創造

広告外領域
イノベーション領域

社会課題解決 / with地域や社会

市場の創造



Top Message

**価値創造の連鎖を起こし、
社会課題解決のキープレイヤー企業へ**

私たちが目指すのは、企業のマーケティングの進化に貢献する
価値創造パートナーであり、社会の発展に寄与する新しい価値を
創造し続ける生活者のパートナーです

代表取締役社長
水島 正幸

朝日町と博報堂の連携

交通での取組から、健康・商業・コミュニティ活性等町づくり全体に連携領域を拡大

2020年8月

交通の実証実験

2020年8月6日
富山県朝日町
スズキ株式会社
株式会社博報堂

富山県朝日町で町内の移動課題解決に向けたMaaS実証実験を開始

富山県朝日町(町長:菅原 靖直、以下「朝日町」)、スズキ株式会社(本社:静岡県浜松市、代表取締役社長:鈴木 俊宏、以下「スズキ」)、株式会社博報堂(本社:東京都港区、代表取締役社長:水島正幸、以下「博報堂」)は、先に締結した「地域の移動課題解決に向けた連携に関する協定書」に基づき、富山県朝日町にて地域住民の移動サポートに関するMaaS実証実験を開始します。

本実験は、朝日町の住民の移動課題の解決を目指すとともに、国土交通省の「自家用有償旅客運送」制度に即し、自家用車を活用したMaaSソリューションの開発、実用化の推進を目的とするもので、朝日町が提供する公共交通サービス「ノッカルあさひまち」として、スズキの軽自動車および博報堂が開発中の自家用車を活用したMaaSシステムを使用します。

実証実験期間中、まずスズキの軽自動車を町の職員が運転し地域住民を送迎する形で「ノッカルあさひまち」のサービスを開始し、その後、自家用車を保有する地域住民からドライバーを募り、同じ町内の住民を送迎する形へサービスを移行していきます。本取り組みは、朝日町の交通事業者である有限会社東自動車商会および株式会社スズキ自販富山、株式会社ヴァル研究所の協力のもと、2020年8月から2021年3月まで実施予定です。当初は無償にて開始し、のちに有償サービスへの移行を計画しています。



2021年10月

DXに関する連携協定

報道関係各位

富山県朝日町
株式会社博報堂
2021年10月12日

博報堂と富山県朝日町が連携協定を締結
—地域コミュニティと自治体サービスの再構築もDXで実現—

富山県朝日町(町長:菅原 靖直、以下「朝日町」)と株式会社博報堂(本社:東京都港区、代表取締役社長:水島正幸、以下「博報堂」)は、朝日町の自治体サービスの住民利便性向上を目的に、デジタルトランスフォーメーション(以下DX)に関する課題について、相互に連携・協力する連携協定を締結いたしました。

地域課題の解決と自治体住民の利便性向上を目的として全国的に自治体サービスのDXが進められています。朝日町もまたその取り組みを求められています。

博報堂と朝日町は2020年よりマイカー乗り合い公共交通サービス「ノッカルあさひまち」の実証実験を通じ、朝日町における交通分野を主として地域コミュニティの活性化に取り組んで参りました。このたびの連携協定の締結により、その取り組みを広げ、交通分野に限定せず朝日町の地域コミュニティと自治体サービスの再構築をDXで実現することを朝日町の目標とともに推進して参ります。

現在、既に検討を始めている交通・健康・商業領域について順次取り組みを開始し、朝日町における生活や地域コミュニティの活性化に寄与するサービスの構築を目指します。

上記の一例として朝日町において、2022年1月から、地域ポイントとLINEを活用した地域住民向けMaaS実証実験を実施する予定です。これは、交通に限らず健康・商業・その他行政活動の活性化も同時に目指すもので国土交通省の「令和3年度日本版MaaS推進・支援事業12事業」に選定されております。将来的には、自治体の喫緊の課題であるマイナンバーカード普及にも寄与する施策となる予定です。

博報堂は、デジタル化により生活者がサービスやモノと密着していく社会において、単なる効率追求型のDXではなく、生活者の体験を豊かにする価値創造型のDXを推進してまいります。



2022年4月

官民連携部署設立

Press Release

富山県朝日町
株式会社博報堂
2022年4月6日

富山県朝日町、自治体DX・カーボンニュートラル推進部署
「みんなで未来!課」を設置、博報堂と官民連携
～生活者視点で価値創造型DXの実現を目指す～

富山県朝日町(町長:菅原 靖直、以下「朝日町」)と株式会社博報堂(本社:東京都港区、代表取締役社長:水島正幸、以下「博報堂」)は、2021年10月に締結したデジタルトランスフォーメーション(DX)連携協定を拡張させ、DX・カーボンニュートラル・情報発信/推進に特化した朝日町の新部署「みんなで未来!課」を官民連携で推進することになりましたので、お知らせいたします。

朝日町と博報堂は、朝日町の自治体サービスの住民利便性向上を目的に、DXに関する課題について相互に連携・協力する連携協定を締結、マイカー乗り合い公共交通サービス「ノッカルあさひまち」や地域ポイントとLINEを活用した地域住民向けMaaS実証実験「ボHUNT(ボハント)」などの取り組みを開始しており、生活や地域コミュニティの活性化に寄与するサービス構築をともに推進してまいりました。

このたび、朝日町はDXによる地域コミュニティと自治体サービスの再構築を強化するため、DX・カーボンニュートラル・情報発信/推進に特化した新部署「みんなで未来!課」を設置いたします。「みんなで未来!課」では、博報堂と官民連携し「みんなでつくるDXの実現」を掲げ、下記を推進いたします。

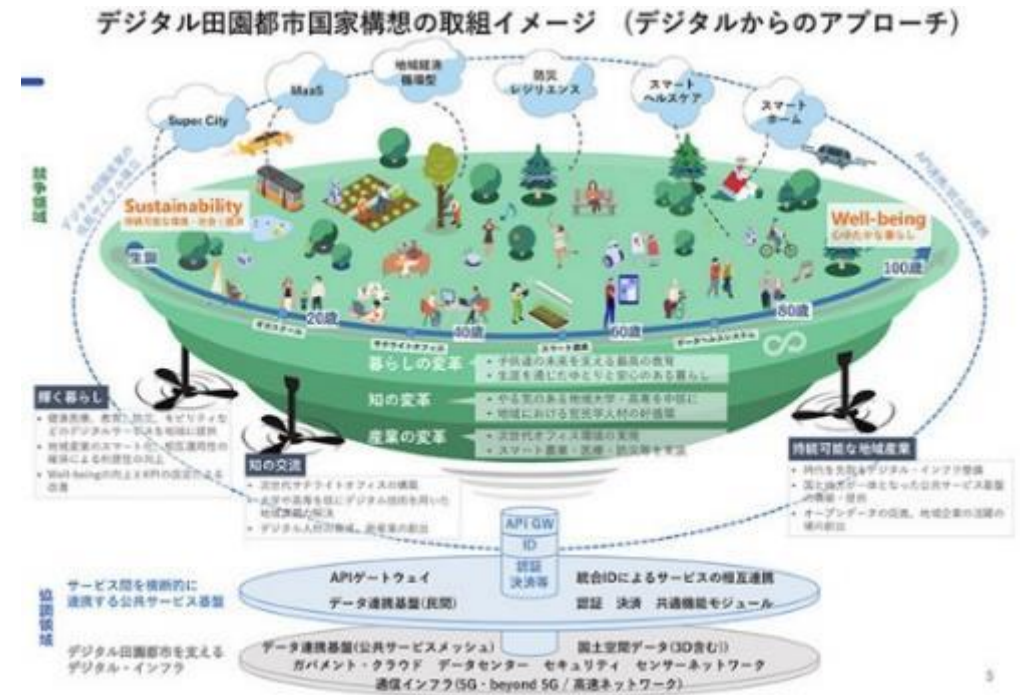
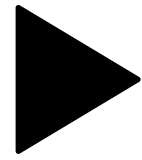
1. 公共交通のDX—共助型マイカー交通「ノッカルあさひまち」×地域交通プラットフォームとして推進
2. 行政サービスのDX—「ボHUNT」を行政×住民の共有プラットフォームとして推進
3. グリーン戦略のDX—行政だけでなくみんなで取り組むグリーントランスフォーメーション(GX)プラットフォームの推進
4. 子育て領域のDX—学校や家庭だけでなく地域での子育てプラットフォームの推進



朝日町は課題先進地域：20年後の日本の社会課題が顕在化 将来的な「日本全体の社会課題解決モデル」を朝日町から！

地方発
デジタル田園都市国家構想の
社会実装モデル＝朝日町モデル

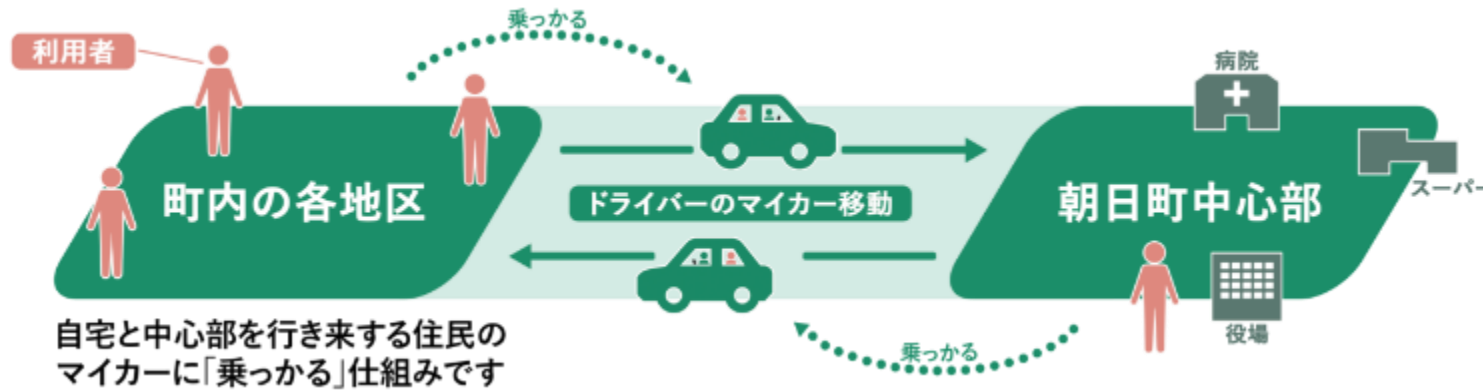
朝日町モデル拡張
デジタル田園都市国家構想の
自治体DX実装@日本全国



- 「ノッカルあさひまち」の概要と本質
- 地域交通の「リ・デザイン」
- 地方版MaaS「モビリティ×〇〇」
- 「生活インフラ」のリ・デザイン

「ノッカル」の概要

マイカー移動を活用し、住民同士の助け合いの気持ちをカタチにした公共交通
マイカー公共交通の日本第一号モデル。延べ3000人以上が利用。



土日祝も運行!
相乗りがお得!

ノッカルあさひまち

乗り放題なしで
目的地へ!

実際に乗れる、手軽に使える、だからみんな助かる! ノッカルは住民どうしの助け合いが変える公共交通サービスです。

朝日町にお住まいの方であれば、どなたでもご利用いただけます。運行時間と停留所は時刻表で確認でき、乗車するには事前予約が必要です。お買い物や通院など、町内のお出かけにぜひご利用ください。

乗車料金	
片道1人あたり	
1名	バス回数券 3枚 (400円相当)
2名以上(乗り合い)	バス回数券 2枚 (400円相当)
※シルバータクシー券やマタニティパスも使用できます。	

時刻表	
エリアごとに時刻表が異なります。詳しい時刻や停留所は各コースの時刻表をご確認ください。	
https://www.town.asahi.toyama.jp/guide/gaiyo-hokori/1584709125502.html	

利用方法	
ご利用には会員登録が必要です。	
①会員登録	会員登録は無料です。朝日町役場までご連絡ください。
②乗車予約	ご乗車の前日午後5時までに乗車予約が必要です。電話またはLINE公式アカウントから簡単にご予約いただけます。
③乗車・支払	乗車料金はあさひまちバス回数券でお支払いください。

電話窓口	
会員登録	0765-83-1100 朝日町役場(平日9:00~17:00)
乗車予約	0765-83-1189 ノッカル予約センター(9:00~17:00)

乗車予約や時刻表の確認が簡単に行える【ノッカルLINE公式アカウント】もぜひ登録ください。別添会員申込も必要となりますので、ご希望の方はお気軽にご連絡ください。



ノッカル

NOKKARU



ノッカルは 住民・自治体・交通事業者がみんなで作る交通サービス

地域交通をコミュニティ発想で再構築する、**コミュニティモビリティ**。
ご近所どうしの『思いやり』を公共交通化した、日本一暖かい行政サービス。



ついでだから一緒に乗って行ってよ!!!

地域の
マイカードライバー

マイカーあり
お出かけ予定あり



同じ方向だから一緒に行ければなあ…

地域の
高齢者や子供たち

お出かけしたいけど…
マイカーなし



朝日町(行政)



財政負担を抑えながら
町内の移動手段を充足させたい

移動課題解決への想いがマッチ！

免許返納しやすい環境を整え
公共交通に切り替えて欲しい

黒東タクシー(交通事業者)



朝日町における新たな移動サービスを検討

外部プレイヤーと連携したMaaS実証実験推進協議会を発足



朝日町役場



黒東自動車商会



スズキ



・HAKUHODO・

博報堂

スーパーや病院訪問者など生活者の声をヒアリングし、 移動課題以外の視点の大切さに気付く

■ 朝日町の生活者の声

年を取っておでかけする機会が減って、友達とお話する機会がなくなった

コロナで各種イベントもなくなり、世代を越えた交流がなくなった

健康教室に行けば知り合いと会えるけど、移動すること自体が大変

移動が大変なので、買い物の楽しみが減ってしまった

朝日町の真の課題は、
「コミュニティ」の軟弱化により
「暮らし」の質が低下していること

気づいたポイント

重要なのは暮らし・コミュニティ発想

「交通」の課題ではなく、「暮らし」「コミュニティ」の課題と捉える

「交通事業者」だけでなく、地域「コミュニティ」全体で移動を支える

交通事業者へ**“運行管理業務”**を委託し、行政の負担を軽減しつつ、安全性の確保を実現している。



事業者協力型自家用有償旅客運送の**全国第1号**



行政



- ・運行管理等の業務負荷軽減
- ・専門分野のノウハウ活用

交通事業者



- ・委託費の確保による収入面での向上
- ・事業規模の拡大

住民



- ・事業者が運行管理／車両整備管理に協力することによる安全性確保

「ノッカル」のポイント：サービス設計

● 法律に基づいた安全なサービス

「事業者協力型自家用有償旅客運送」の全国第1号として法に基づき運用
朝日町役場が運行主体として提供する安全な公共サービス、保険も付与

● 朝日町から交通事業者^①に運行管理を委託

タクシー事業、及びあさひまちバスの運行委託を受けている黒東自動車商会在が
このサービスの運行管理を行う

● ドライバーは助け合いの精神^②をもとに、ついでに送迎

2種免許保持者または、安全講習を受けたドライバーが個人の自家用車を使って送迎
ドライバーはもともと行く予定のある場所に、近所の利用者を乗せてあげる

● 各地区と中心市街地間の利用に限定

居住地区から病院・スーパー・役場などがある中心市街地までの利用に限定
自分の車に乗せてあげる利用者は同じ地区に住む住民のみ



地域住民がドライバーとなり、近所の利用者を送迎するサービス

「ノッカル」のポイント：安全設計

● ドライバーに安全講習を実施

2種免許を持っていないドライバーに対しては、ドライバーになるための講習を実施
安全運転に自信がない人はドライバーにはなれない

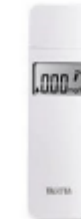


● 安全な車両のみを使用

運行に使用する車両を登録する際に、車両の状態車検の有効期限を確認



アルコールチェッカー



● 運行前にドライバー点呼を実施

運行前に、ドライバーの健康状態・アルコールの有無を運行管理者が確認ガイドラインに沿って、使用する車両に問題がないかを確認

● 事故に備えた保険を完備

万が一運行中の事故が発生した場合に備えて、旅客運送用の保険をかける



安心・安全な運行を可能に

「ノッカル」のポイント：仕組み設計

フロント = **アナログ**
 高齢者でも使いやすい設計に

バック = **完全デジタル**
 素人ドライバーでも安全運行可能に

紙のバス券・時刻表・電話窓口
 (地域バスと共有で地域負担減)

Three analog bus tickets are shown, each for 'あさひまちバス' (Asahi-machi Bus) with a 2,000 yen value. Below them is a paper timetable for October 2022, showing routes and departure times. The timetable includes a map of the area and contact information for the company.

路線	月	火	水	木	金	土	日
ノッカル	-	-	8:00	-	8:00	-	-
ノッカル	8:40	8:40	-	-	-	-	-
ノッカル	9:30	9:30	9:30	9:30	9:30	9:30	9:30
ノッカル	10:30	10:30	10:30	10:30	10:30	-	-
ノッカル	-	-	11:00	-	-	-	-
ノッカル	13:00	-	13:30	13:30	13:30	-	-
ノッカル	15:20	-	15:20	-	15:20	15:20	-
ノッカル	17:30	17:30	17:30	17:30	17:30	-	-

管理システム/ドライバーアプリ/予約LINE
 (地元タクシー事業者が運行管理)

Two screenshots of the 'ノッカル' system. The left one shows a driver app interface with options to select directions: '各地区→泊' and '泊→各地区'. The right one shows a management system interface with a '確認リスト' (Confirmation List) and a 'メニュー' (Menu) button, displaying '運行中' (Running) for December 31, 2021, at 10:30.

A diagram illustrating the digital ecosystem. It shows three main components: '運行スマホアプリ for ドライバー向け' (Driver app), 'Web管理画面 for 管理者向け' (Web management system), and '予約LINE for ユーザー向け' (LINE reservation for users). Arrows indicate data flow between these components and a central 'データベース' (Database). Below the diagram is a grid of icons representing various system functions like '運行管理' (Operation management), '予約管理' (Reservation management), and 'ドライバー管理' (Driver management).

なぜノッカルを開発したのか？

地域交通の危機は、もはや**日本全体の社会課題**。
特に、**コスト問題**は、持続的なサービス提供への大ハードル。

民間路線バス

※空気運ぶ問題；90%が赤字



自治体コミュニティバス

※1,350自治体が自前運行



乗り合いタクシー

※デマンド型 = 事前予約が必要



マイカー公共交通

約1,350の自治体で
年間1000億円近い交付税

※日本の自治体数は1700超。

※交付税は10年間で50%以上増加。

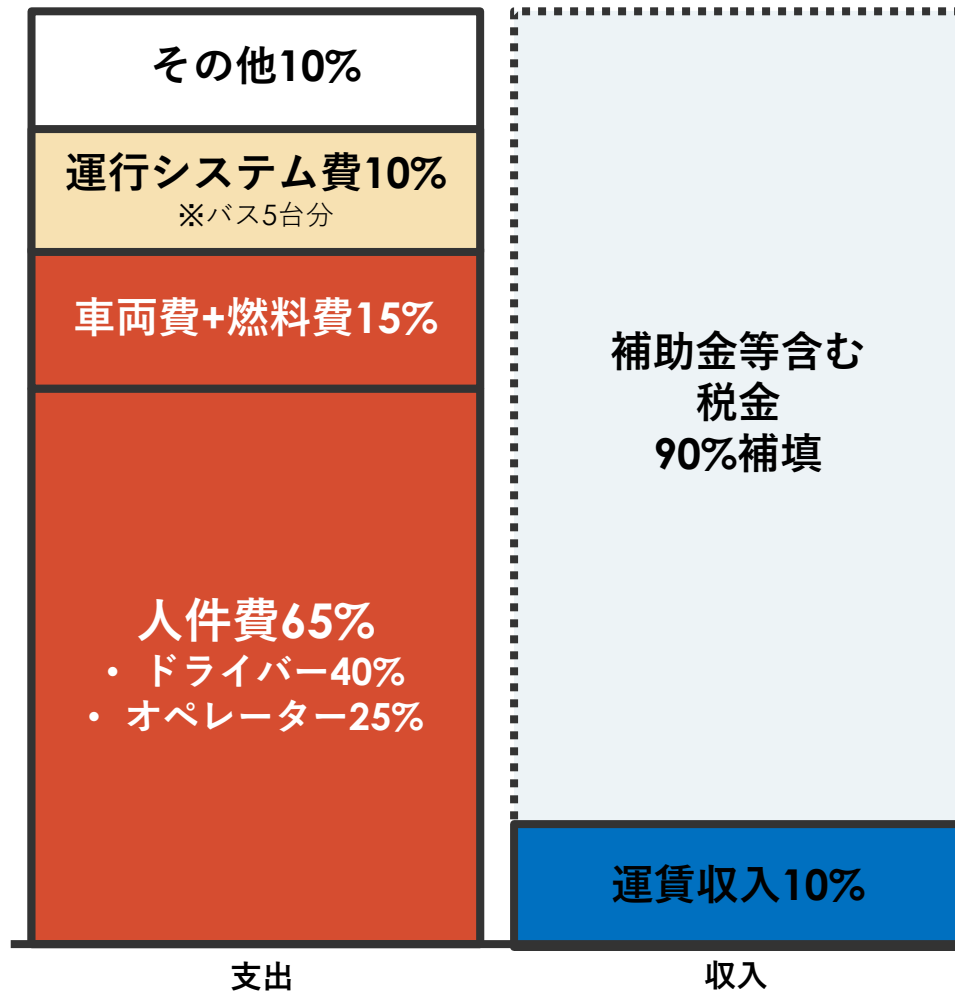
※都道府県からも別途補助金等が投入されている。



「朝日町」がノッカルを導入した理由

マイカー交通は、最大のコスト課題である**人件費／車両費を大幅に圧縮**

コミュニティバスの収支（収支率10%程度）

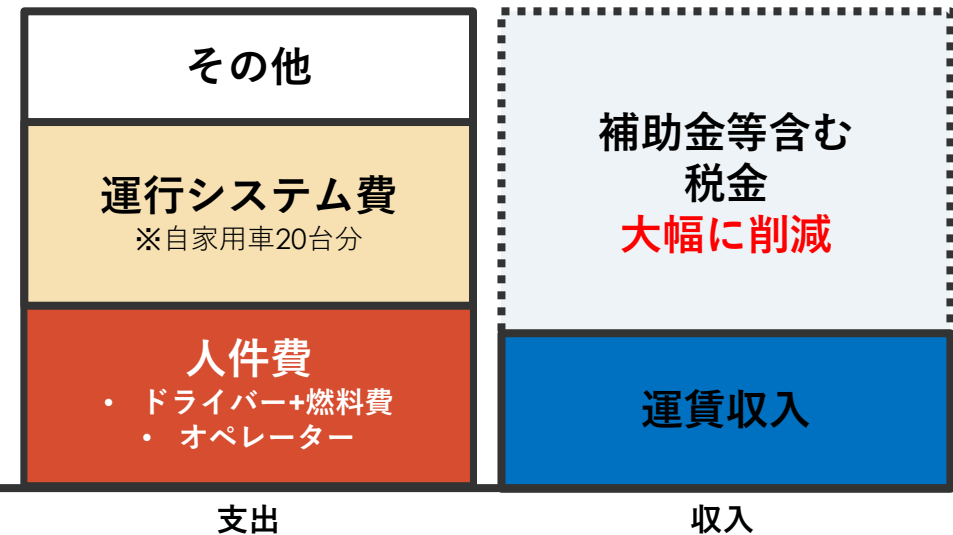


バス運行の支出の大半が**人件費と車両費**

- ・ 自家用有償はコミュニティの助け合いで人件費を削減
- ・ 車両費も自家用車活用で削減

1日に5便の運行でバス運行の半額（朝日町の現状）
1日に10便の運行で収支が黒字化（将来目標）

マイカー交通の収支（イメージ）



地域の既存アセットやハードを徹底活用 = 外部の余計なモノは持ち込まない
地域アセットを活かすサービス設計で、徹底的にコスト圧縮。

朝日町

地域の既存アセットやハード

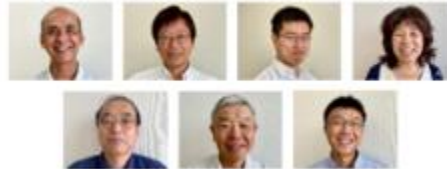


既にあるバスの仕組みや民間のマイカー車両



自治会コミュニティやボランティアドライバーさん

住民ドライバーの皆さん



公助型マイカー交通
 ノッカルのあさひまち
 =
 地元ハード × 外部DX支援

HAKUHODO

外部視点でのサービスやソフト開発

住民どうしの助け合いが支える公共交通サービス



管理側用
Web管理画面

ドライバー用
運行スマホアプリ

利用者用
予約LINE



地域ハードを活かすという前提で、
 外部視点でのDX支援（サービス/ソフト開発）

既に地域にハードは揃っている
 過大なハード投資は非効率で負の連鎖に

ノッカルは、**地元アセット**を徹底活用でコスト削減 地方ならではの**クルマ社会**=マイカーアセット

朝日町内のモビリティ資産



3 台

導入費：1000万円
運行費：年1000万円



10 台

導入費：300万円
運行費：年500万円

マイカー

8000 台以上

朝日町(全国の田舎)に
既にある超絶資産！

地域の・地域による・地域のための 公共交通 地方部ならではのアセット = 地域コミュニティ！



ボランティア精神で
ノッカルを運行して頂いている
各地域のドライバーさんたち



地域による、地域のための、共助型交通

早くも**地域に浸透**しているノッカル。
ユーザーだけでなく、**ドライバーにとっても心理的効用**が生まれている。



ノッカルの認知率 **84.3%**

ユーザーのみなさん



- ノッカルさんって呼んでます。
- 友達と一緒に話しながら出かけられるのが楽しい。
- 予約するのも頭の体操になっていいです。
- バスみたいに大回りせず**目的地に直接行ける**のが良い。
- 荷物を下ろす手伝いをしてもらったり本当に助かる。

ドライバーのみなさん



- 外から来た人間にとっては「**認められる感覚**」がある。
- 「ありがとう」と言ってもらえて**集落の中での役割ができる**こと、多少でも対価がもらえることが達成感。
- **地域のお役に立てているなら嬉しい**です。
- 通勤途中と一緒に行くだけなのでそんな苦にならない。

地域アセット活用 = 地域に馴染む設計にも

新しいもの／デジタル化ではなく、利用者が使いやすいサービス設計 = コストの無駄をなくし、負担の少ない運行が可能

バスと同じように乗れる

チケット、停留所／ダイヤ = バスと共用／補完



街ゆき		月	火	水	木	金	土	日
あまひまらバス 大塚線 1	7:00前発	7:00前発	7:00前発	7:00前発	7:00前発	-	-	-
	7:55	7:55	7:55	7:55	7:55	-	-	-
あまひまらバス 大塚線 2	10:15前発	10:15前発	10:15前発	10:15前発	10:15前発	-	-	-
	11:45	11:45	11:45	11:45	11:45	11:45	11:45	11:45
あまひまらバス 大塚線 3	14:20前発	14:20前発	14:20前発	14:20前発	14:20前発	-	-	-
	-	15:45	-	15:45	-	-	-	15:45
あまひまらバス 大塚線 4	18:30前発	18:30前発	18:30前発	18:30前発	18:30前発	-	-	-
	-	-	-	-	-	-	-	-



タクシーと同じ予約オペレーション

電話やLINE予約オペレーター = タクシーと共用



公共交通としての安全設計

ドライバー講習／保険加入／マイカーメンテナンス



代金 = 最低限の感謝の気持ち

バス以上、タクシー未満の運賃とサービス設計

人数	1人当たり片道料金
1人	バス回数券 3枚 (600円相当)
2人以上 (乗合)	バス回数券 2枚 (400円相当)

運賃600円定額 (バス券)

- 直接の現金支払いNG / 電子決済は高齢者NG
- 手間賃程度のドライバー報酬 (助け合い精神)
- ドライバー報酬は地域内商品券で後ほど町から

ドライバーに200円支給

● 安全性について

これまで **事故はゼロ**

● 運行技量について

これまで、**運転技術の不満はゼロ**

※一部、車両についてについての車高自体の高さについては意見あり。

● 料金について

これまで、**運転手からの賃上げ相談はゼロ**

※一部、ユーザーからは相談あり。

ノッカルは、地方ならではの地域資産を最大活用し、住民・自治体・交通事業者・外部企業で創った新しい地域交通

ノッカルのポイント

地域のモビリティ資産

8000台のマイカー(人口1万人)

- ・8000台の車両とドライバー
- ・8000台分の移動と空席
- ・今後はスクバスや福祉バスも

※町にバス3台/タクシー10台のみ

地域のコミュニティ資産

強いコミュニティ文化

- ・ノッカルドライバー＝地域貢献
- ・旧小学校単位での自治会
- ・助け合いや寄り合いの文化

※助け合いとして積極的に参加

地域の既存交通の資産

使い慣れた既存交通アイテム

- ・バスの停留所をそのまま活用
- ・既に発行済みのバス券の活用
- ・バスダイヤを補完するノッカル

※住民が知っているサービスの延長線に

地域の事業者の資産

地域の交通のプロと一緒に

- ・地元の黒東タクシーが運行管理
- ・近江社長は町の移動の生き字引
- ・タクシー/バスのノウハウ活用

※町唯一の交通事業者でバスも管理

地方ならではの地域資産を最大活用し、交通事業者と共に創る「公共ライドシェア」ともいえる

ノッカルを産んだ背景は、多くの地域社会にあるご近所同士の助け合い文化。



共助だから生まれる「地域全体での共創」

あくまでも元々存在した助け合い文化をデジタルで見える化

- ・助け合う文化はあったが近年は衰退、仕組み化することで共助しやすく
- ・地域の地域による地域のための交通

バスやタクシーとの共創デジタル化運営

- ・ノッカル単体でなく地域交通全体再編へ
- まずはバックエンドの共通デジタル化

共助だから生まれる「低コスト」

運賃600円定額/ドライバーは200円

- ・バスとタクシーの中間のサービスレベル&運賃を意識
- ・定額600円を自治体(提供側)/黒東自動車(運行管理)/ドライバーで按分
- ・ドライバーは手間賃程度も不満なし → ドライバーさんは地域貢献として誇りを持って運行

1日10運行程度で黒字化も可能

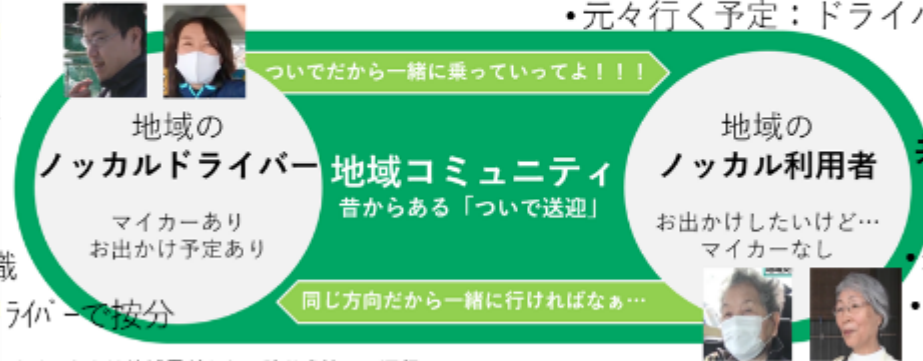
- ・赤字要因の人件費/車両費が圧縮、低コストで補完的な導入が可能

共助だから生まれる「心理的負担の軽減」

元々予定があった移動にノッカル仕組み

- ・移動予定をアプリで登録→ダイヤとして表示、一緒に行きたいユーザーがノッカル
- 物理的&心理的な安心の担保

- ・物理的な安全性はシステムや保険で担保 → 隣人乗せて安全運転。事故ゼロ
- ・元々行く予定：ドライバー負担が軽い、ついでに乗るだけ：ユーザーも気楽 → 隣人の車。車両不満ゼロ



共助だから生まれる「地域活性」広がる共助サービス

1番の目的地は娯楽施設

- ・最も多い移動が娯楽目的=ついでに一緒にだから気兼ねなく
- ・4年ぶりに外出した90代透析での入院が通院が可能になども

こどもの移動、地域教育サービスへの拡がり

従来の公共交通ではカバーされなかった移動の掘り起こし

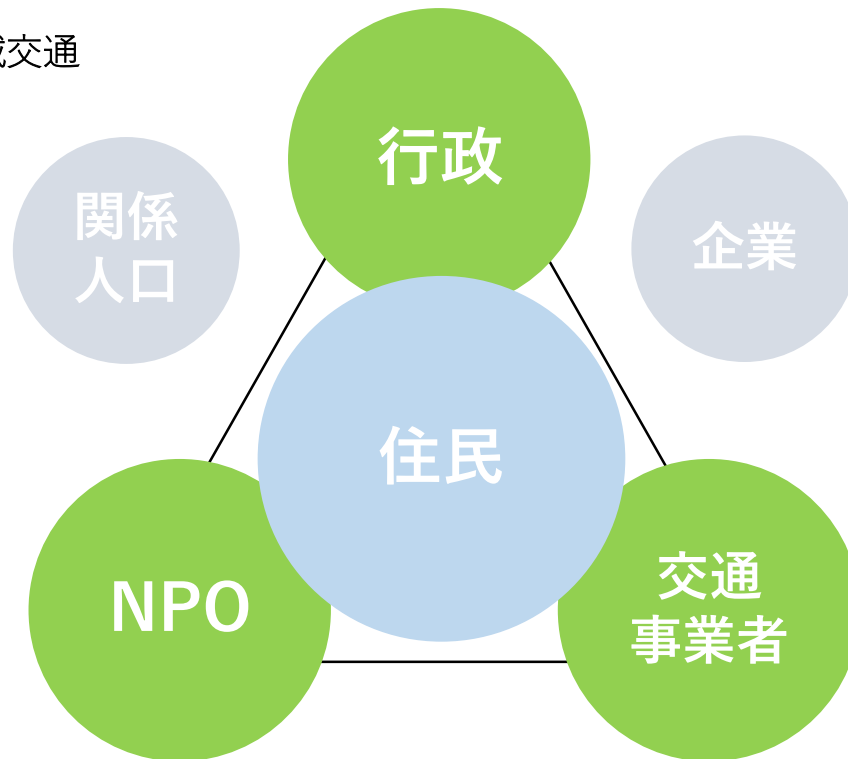


ノッカルが地域社会に根付く本質

負担（費用/業務）を誰かに（一部）に集中しすぎていないか？

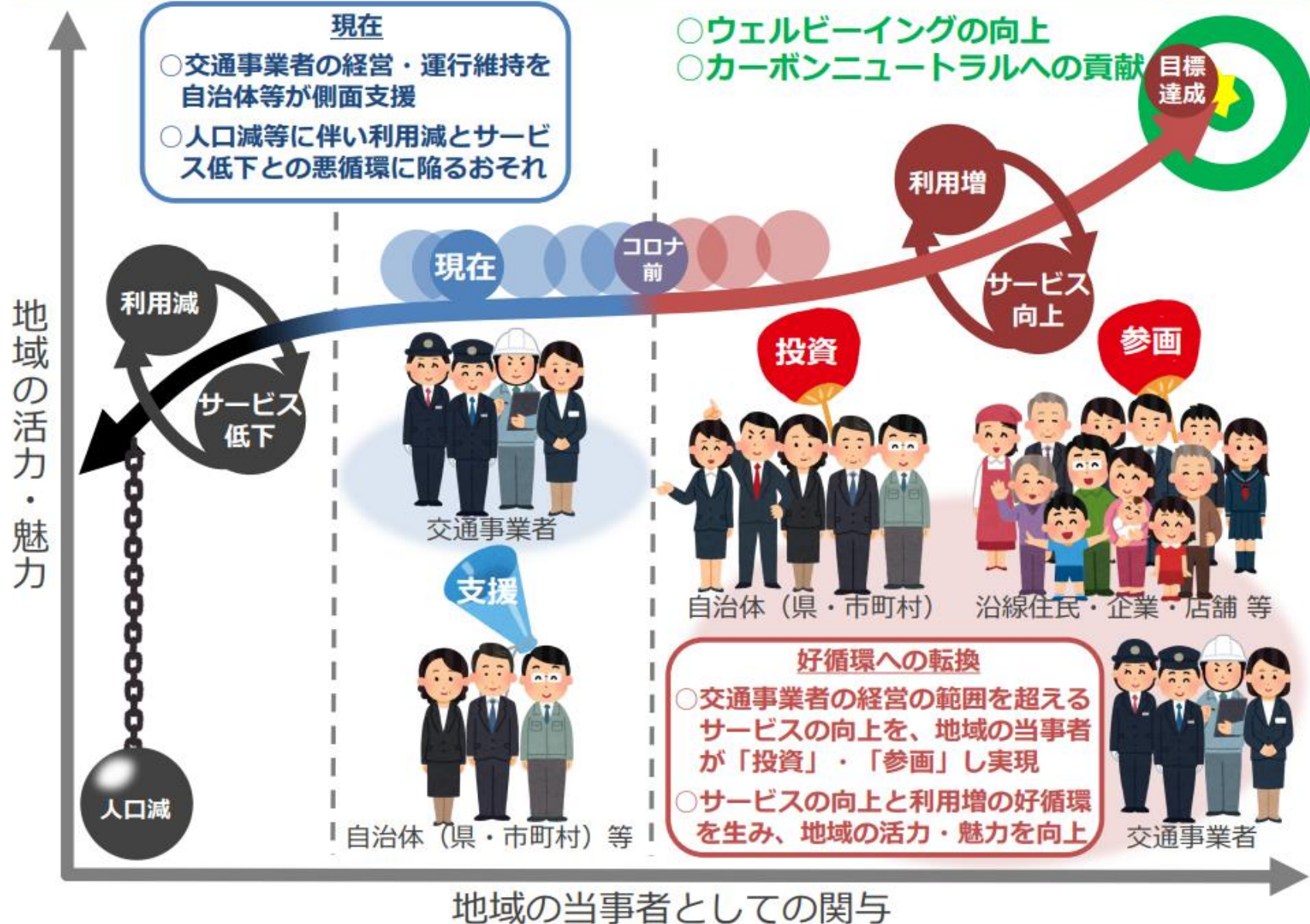
住民を含めた全員参加型で地域全体の公共サービスを作っていく

例) 地域交通



- 交通サービスづくり
- ドライバー
- 運行管理
- 財政負担
- 利用者募集/周知

地域の活力・魅力の向上に向けた役割分担・責任分担（案）のイメージ 資料3別紙



既存交通事情はエリアによって大きく異なる = 地域交通リデザインの方向性も当然異なる。

全国1700超の自治体	大都市 (40エリア) 50万人以上/事業者複数あり	地方中核市 (100エリア) 20万~50万人/事業者複数あり	地方都市 (400エリア) 5万~20万人/事業者少数	地方町村 (1200エリア) 5万人未満/事業者存続危機
こども世代	<p>ニーズやアセットが存在するのか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ユーザーメリットは何か？ 5大都市圏：事業者間の協力関係 以外：マルチ化できる選択肢不足 	<p>自治体/教育委員会運営スクールバス → 混乗化？</p> <p>公共バス以上の資産の可能性</p> <ul style="list-style-type: none"> 国交省/文科省、交通課/教育委員会など組織課題 安全性担保やデマンド化も 		
アクティブ世代	<p>鉄道・民間バス・タクシー → マルチモーダル化？</p>	<p>1人1台マイカー → 自家用車のシェア化？</p> <p>地方は圧倒的なマイカー社会</p> <ul style="list-style-type: none"> マイカーのシェア活用は大きな可能性も、既存交通との棲み分けや安全性の確保は必須課題 		
シニア世代	<p>AI活用/自動運転？ 乗合タクシー？</p> <p>ニーズやコストの課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ユーザーニーズはあるのか？ 持続的な運用コストはあるのか？ 	<p>自治体コミュバス/デマンドバス化 民間タクシー/福祉送迎 → デジタル化？相互活用？</p> <p>コスト(収支率15%前後)や運営者不足は、地方部共通の課題</p> <p>現状メイン交通：どう改善するか？</p> <ul style="list-style-type: none"> コミュバス = 1400自治体 デマンドバス化 = 700自治体 予約/決済デジタル化は10%前後 		

MaaSレベル：プラス

日本の自治体数の1割



民間主導でビジネス化する領域

- 民間交通やIT事業者によるリード
- 高度なデジタル/テクノロジー活用
- AI運行や自動運転などの社会実装
- 複数交通モードルの統合(MaaS)
- 新交通や交通×〇〇でのビジネス化

日本の自治体数の9割/人口の5割

MaaSレベル：マイナス

地域共創での生活インフラ維持領域

- 民間ビジネスの撤退/交通事業者の衰退
- 公共交通としての持続的なサービス提供
- 地域による利便性/コストを考慮した選択
- 地域資産活用(マイカー/スクバス/福祉バス...)
- 地域事業者や生活者との共創型リデザイン





未来に向けた取り組み

みんなで創ろう！朝日町の未来～DXに向けた取り組み～